



さあ、愚直に学び、議論し  
心を高め合おう!!

## ● 勉強会のプログラム(基本)

- 9:30~11:00 **塾長講話**  
下村満子塾長のホットでタイムリーな「人生」「生き方」についての講話です。
- 11:00~12:15 **輪読会**  
「生き方」を考える名著を輪読。毎月課題本をどう読んだか、塾生の発表もあります。
- 12:15~13:00 **昼食(休憩)**
- 13:00~14:30 **ゲスト講話**  
すばらしい生き方をしている方々(応援団)を招きその生き方を聴く。
- 14:30~16:30 **塾生フリートーク**  
塾生の生き方発表や問題提起を中心に徹底トーク。

※講座の後、飲食を共にしながら、車座になり本音で語り合う「夜遊び学」も開催します。

## 「塾長 下村満子プロフィール」

ジャーナリスト。元「朝日ジャーナル」編集長。医療法人社団「こことからだの元気プラザ」前理事長。「福島県男女共生センター」前館長。慶應義塾大学経済学部卒。ニューヨーク大学大学院修士課程修了(経済学専攻)。1965年に朝日新聞入社後、「週刊朝日」記者、朝日新聞ニューヨーク特派員、「朝日ジャーナル」編集長、朝日新聞編集委員を歴任。

女性で初めてポン上田国際記者賞を受賞したのを始め、日本翻訳出版文化賞、アテナ国際賞など。ハーバード大学ニーマン特別研究員に招聘。フリージャーナリストとして活躍のかたわら、両親の事業を引き継ぎ、財団法人東京顕微鏡院理事長に就任、続いて医療法人社団「こことからだの元気プラザ」を設立、性差医療の第1歩を開いた。役職多数。

主な著書に「松下幸之助「根源」を語る」「Made in Japan-Akiko Morita and Sony」「日本たたきの深層-アメリカ人の日本観」「編集長下村満子の好奇心」「いい男の時代」「ソ連人のアメリカ観」「アメリカ人のソ連観」「ハーバード・メモリーズ-アメリカのこと・日本のこと」「いのちとは何か 生きるとは何か」他、多数。

## ● 入塾の方法

- 中学3年生以上なら年齢・性別・職業・国籍は問いません。但し、塾生の年齢、地域、男女比などバランスをとるため、簡単な選考を行う場合もございます。
- 所定の入塾申込書にご記入の上、「下村満子の生き方塾」事務局までFAX、メールでお申込みください。(第Ⅱ期生募集中)

## ● 会費

- 半年5回(20講座)で、会費は25,000円の予定。会費は例会等の会場費、講師の交通費・宿泊費等、資料費、ホームページの立ち上げ及び管理、名簿管理、事務連絡費等の補助に使われます。また中高大学生などへの会費奨学金制度を設けています。第Ⅰ期には参加の都度会費を支払う「特例措置」を設けました。
- 課外活動や特別公開講座、その他の企画講座などはこの会費に含まれません。飲食をともなう交流講座なども実費を徴収します。

## 下村満子の「生き方塾」

### 第Ⅱ期 平成23年10月開講

共に学び合う新塾生を募集します!  
ほんものの人間をめざして「心の旅」が始まっています。  
あなたも新しい仲間になりませんか?

ありがとう!  
すばらしい応援団がついています!

生き方塾には、県内外を問わず、すばらしい応援団の皆様がついています。(応援団の皆様のお名前は別紙挟み込み)皆様、ご都合がつく限り、講師として話をしたり、さまざまな協力をする約束してくださっています。

お問合せ  
お申込みは  
事務局まで

〒963-0202 福島県郡山市柏山町3番地  
TEL: 024-961-8822  
FAX: 024-952-6788  
E-mail: info@ikikata-jyuku.com



愚直に真剣に学び合い、心を高めて

いまこそ福島から日本へ、世界へ発信を!



下村満子の  
「生き方塾」

Mitsuko Shimomura's IKIKATA-JYUKU School

ごあんない

# なぜいま、「生き方塾」なのか？ 塾長 下村 満子

「下村満子の生き方塾」なる私塾というか、寺子屋的塾を発足させようという無謀なことを思い立ったのは、昨年（2010年）の6月ごろでした。それも、東京ではなく、私の両親の故郷であり、先祖伝来の地であり、私が10年間、男女共生センター館長を務めた、福島県に、です。なぜ福島なのか、ということですが、常に中央、東京を向いている日本の地方から、逆に全国、そして世界に発信、という気構えです。こんなことを話しても、「気持ちわかるけど、マジ?」「偉いけど、でも、なぜ福島なの?」など、内心、その実現を本気で受け止めた人は少なかったような気がします。正直、私自身も、どういう形になるかは、見えていませんでした。ただ、「絶対、やる!」という気持ちだけは、なぜか揺るぎませんでした。それが、一年もたたないうちに、開塾出来たことは、信じられない気持ちです。

しかも、その間に、想像もしなかった、千年に一度といわれるような、大地震、巨大津波、加えて福島は原発事故と放射線汚染という人災の三重苦に襲われました。これは、人類史上初めての経験です。そんな中、「生き方塾」を開塾出来たことは、ほとんど奇跡です。これは、塾生の方々からの「今こそ、この苦難の時こそ、生き方塾です」という、強く、熱い声、思いが原動力になったとしか思えません。私たちは、いま、何か、大きな天の意志に動かされているような気がしてなりません。もともと、なぜ私がこのようなことを思い立ったかについて、少し説明します。

幼児期に満州で終戦を迎え、日本に引き揚げてきてから今日までの私の道は、まさに日本の敗戦から戦後の復興期、そして経済大国日本、更にはバブル崩壊から今に至る、激動の戦後日本史とそのままた重なります。それに加え、男女平等を定めた新憲法下において、戦後の革命的な日本の女性史をそのまま生きてきたという実感もあり、我ながら随分ドラマティックな時代に生を受けたものだと感無量になるとともに、考えようによっては、大変幸運な時代を生きてきたという感謝の思いも抱いています。ただ、最近、トシをとったせい、敗戦の廃墟から立ち上がり、死に物狂いの努力の末に世界第二の経済大国にまでなり、成功のモデルと羨まれてきた日本ではありますが、一方で、経済的に豊かになるにつれ、日本人の心は、貧しくなってきたように思うのは、私だけでしょうか。

近年メディアで毎日のように報道される様々な犯罪、例えば親殺

子殺し（それも考えられない残酷な）、家庭内暴力、教育現場でのいじめ、教師による女子生徒への性的暴力、生徒の教師への暴力、高齢者に対する詐欺や暴力、親の死後も年金を騙し取る子供、貧困者や弱者を騙すビジネス、これまでは社会の模範として尊敬されてきた職業、例えば警察官、大学教授、教師、医師、弁護士、新聞記者、自衛官、検察などなどによる諸々の犯罪。

学問のあるなしに関わらず日本人が本来持っていた、美徳、東洋的な和の心、人としての道、利他や優しさ、謙虚さ、倫理道徳の基本、人間としての誇り・尊厳・品格、足るを知る心、などが失われ、自己中心・利己的な、恥を知らない、権利ばかりを主張し義務も責任も果たさない、反省もせず、感謝の気持ちもなく、「政治家が悪い」「官僚が悪い」「社会が悪い」「学校が悪い」「先生が悪い」「親が悪い」「メディアが悪い」「医者が悪い」「経営者が悪い」「警察が悪い」と、すべて他人のせいにし、一億総評論家となり批判ばかりするけれど、自己反省は全くない、といったギスギスした日本社会になってしまいました。日本がこのようになってしまったのは、私も含めた日本人全員の責任だと、私は思っています。

いまや、日本経済は長い停滞期にあり、日本の国の信用は地に落ち、学力は低下し、若者たちは未来に対する夢と希望が持たず、失業や就職難の不安におびえ、全く元気がなく、思考停止し、小さな世界に閉じこもり、内向き、保守的になっています。日本社会全体が、革新性、エネルギー、ダイナミズムを失い、鬱状態と言っても言い過ぎではありません。どうしてこんなことになってしまったのでしょうか。

戦後、私達は、日本の歴史上かつてなかったような物質的豊かさを手にしましたが、その結果、拝金主義、物質中心主義が蔓延し、大自然と心の大切さを、忘れてしまったのです。しかも、その物質的豊かささえも、いま失いつつあり、残ったのは「日本人の心の劣化現象」ということになりそうなのです。

でも、日本人は本来、その遺伝子の中に、素晴らしい利他の「心」と豊かな「感性」を持っており、また自然を愛し、自然と一体になることが最も得意な民族だと私は思っています。また、謙虚で質素で、人の道を大切にしてきた歴史を持っています。

いま、世界における日本の国の地位の低下、政治の危機、経済の危機、教育レベル低下、メディアの衰退などが言われていますが、もはや絆創膏を貼って一時的に傷口を押さえるだけでは間に合いません。日本の国力、経済力、政治・外交力、教育力の根本的な再生のためには、短期決戦の魔法の杖はなく、時間をかけた「日本人の人間力の回復・再生」、言い換えれば「日本人の心の再生」に取り組むしかありません。それにはまず、私達、一人一人が変わることから始めるしかありません。

私もジャーナリストとして、書いたり、話したり、テレビで発信したりして、こうしたことを訴えてきましたが、そしてそれはこれからも続けるつもりですが、人生の最後のコーナーにさしかかったいま、ただ単に書いたり話したりするだけでは間に合わない、例え小さな種を一粒植えるというささやかなことであっても、何か実践に取り組みたいという気持ちになった次第です。

こんなことをして何の役に立つのかと笑われそうですし、組織もスポンサーも何もない、たった一人の孤独な戦いで、私自身には何の利得もない、むしろ時間とエネルギーと体力と気力と、なけなしの財布をはたいての、無謀なトライで、まさに我ながらドンキホーテだな、と分かってはいますが、でも、なぜか、やむにやまれぬ気持ちが内側から沸き起こってくるのを、抑えることができません。

私は、この塾に参加してくださる塾生と共に、ゼロから、真剣に、「生きるとは何か」「命とは何か」「何のために生きるのか」「いかに生きるべきなのか」「何を基軸に生きるべきなのか」「本当の幸せとは何か」「より良い社会をつくるには、どうすればいいのか」といったことを話し合いながら、自分と向き合い、自分を発見し、揺るがない自分を作り上げ、充実した人生を送るヒントを手にして、それを実践する場を作っていきたいと思っています。一人一人が、この塾で学び合ったことを、小さな一歩から地道に、愚直に実践し、利他の心、愛の心をベースに生き方の姿勢を変えていけば、必ず日本は変わります。また、塾生がお互いに、素晴らしい人生の「仲間」になっていただければ、さらにその輪を広げていくことが出来るでしょう。入塾した皆さんと一緒に、塾を作り、育てていくつもりです。どうぞ皆さん、是非仲間として参加してください！